

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號一第 卷十二第

行發日一月一年四十正大

號別特

地租と營業稅との對立に關する考察……………法學博士 神戸 正雄

西陣の機業仲間……………經濟學博士 本庄榮治郎

朝鮮の農業金融組織……………法學博士 河田 嗣郎

往古に於ける上海と日本の史的關係……………文學博士 新村 出

資本の社會的性質……………法學博士 河 上 肇

ビオ・ソシヤル假説の意義……………文學博士 米田庄太郎

産業集中に就てのマルクス説の謬想……………法學博士 田 島 錦治

金紙幣本位制……………法學士 作田 莊一

水産資本融通問題……………法學博士 山本美越乃

海運に於ける競争の運賃に及ぼす影響……………法學士 小島昌太郎

支那の帝政と支那の文化……………文學博士 矢野 仁一

倫理と經濟との關係……………法學博士 財部 靜治

## 朝鮮の農業金融組織

河田 嗣 郎

### 一 朝鮮の産業と資金

朝鮮の經濟狀態はまだ所謂農業經濟時代に在る。其の産業の殆んど全部は農業經濟の範圍内に屬する有様で、少しばかりの鑛業と幼稚な工業とが行はるゝ外は、かなり盛に漁業が行はれて居るに過ぎぬ。從て其の必要とする産業資金は主として農業資金である。そしてその農業資金は、一方土地の開墾及干拓と廣義の土地改良イリシメンの爲めに必要とせられ、他方又農作物の改良、栽培方法の改善、農産物の調製及販賣の爲めの設備、其他一般に農業經營の爲めに必要とせらるゝ。そして又農家の舊債整理の爲めにも資金は必要とせらるゝ次第である。

此等諸方面に於て必要とせらるゝ農業資金は、主として朝鮮殖産銀行、東洋殖産會社、地方金融組合及其聯合會の手を経て調達せらるゝのであるが、其他尙ほ一小部分は、普通銀行と、朝鮮在來の組合的組織たる「契」と稱せらるゝものと、民間金貸業者との手に依て融通せられるものとする。然るに朝鮮に於ける經濟狀態は其の發達の十分ならざる爲めに、そして又在來勤勉と貯蓄

とに依て資本を造り出す氣風と實狀との乏しかつた爲めに、到底必要とせらるゝだけの農業資金を自ら調達する力がない。其爲め資金の供給は之を内地より仰ぐ外ないのだが、其又内地に於ては元來あまり資金の豊富ならざる所へ持て來て、朝鮮の經濟事情その他一般的に朝鮮なるものに對する理解の不十分なる結果、とかく思ふやうに其の供給行はれず、從て半島に於ける農業の開発も行はるゝは行はるゝ乍ら、十二分にして満足すべき程度といふ迄に行き得ない實狀に在る。今後内地に於て朝鮮の諸事情に對する理解の十分に行渡ると共に、資金の供給も漸次潤澤なるに至らんことは、半島經濟界の爲めには、最も必要とする所たらざるを得ない。

元來内地と半島との間には、經濟發達の程度の上に大分の懸隔あり、從て金利に於ても少からざる開きが存する次第だから、朝鮮に於ける經濟諸事情特はその農業經濟の實狀が、内地に於て好く理解せられ、半島農業の前途發達の餘地多く、之に對する投資の安全にして且つ有利なることが知れ渡るに至らば、内地よりして今少し潤澤なる資金供給の行はれ得べき望あるは、疑なき所とせなければならぬ。尤も由來農業に需要する資金は長期にして然かも比較的低位なるを要する所から、兎角その資金の吸収は思ふ様に行かないで、常に其の供給不足を歎かざるを得ざる嫌あることは、諸國何れも之を見る所で、我國内地に於ても、日本勸業銀行や府縣農工銀行の如きが、現に其の苦き經驗を嘗めつゝある。然したゞ朝鮮に必要とする資金調達上便利とする點は、

其の農業がまだ内地に比し發達の十分ならざる實狀に在り、然かも之に改良を施せば將來大いにその發達を齎すを得べき見込多く、從て内地よりも稍々高き利子を拂つて資金を借入使用しても、よく之に堪ゑ得ることである。即ち朝鮮は經濟一般の實狀より見て内地に比し金利の高かるべきは當然なるに加へて、朝鮮の農業が能く其の高き利子支拂に應じ得べき實力を有するといふ事情は、内地の資金を半島に吸収する上には、甚だ有利なる事情たらざるを得ないのだから、朝鮮の經濟實狀に關する理解さへ十分なるを得るに至らば、内地の農業が之を吸収し得ざる資金をも、多少は朝鮮に吸収し得る餘地ありとせなければならぬ。從て茲に最も大切と思はるゝことは、朝鮮の農業が頗る健實なもので、然かもその改良發達の餘地に富み、投資の目的上に於ては内地の農業以上に安全で且つ有望なるものたることが、速かに内地に廣く知れ渡るに至らむこと之である。

この意味よりすれば、直接に資金の需給結合の任に當るを以て業とする在鮮及内地の銀行其他の金融機關が、内地人に對して十分朝鮮産業の實際狀態を知らしむべき手段を講ずるを必要とすると同時に、總督府其他の公共機關の如きも、朝鮮事情の宣傳の爲めには、十分努力する所なくてはならぬ。内鮮融和といふ問題はたゞ思想や感情の上の問題たるばかりではなく、經濟上に於ける實際的融合が甚だ必要たらざるを得ない。經濟的の融合すら出來ないやうでは、思想感情の

上の融和の出來やう筈はなく、又朝鮮統治の結局の目的も、内鮮合一の政治に依て内鮮共に利する所あり、個々別々に國を成すよりも、併合一致して同一社會を形造ることに依て、より多く内鮮各人の社會的生存の向上と充實とを爲し得るといふ點に存せなければならぬ。従て内鮮の經濟的融合といふことは、國家主義を超越したる必要であり、彼我民族の生存上より之を觀て是非とも必要とせらるゝ所であらねばならぬ。内鮮問題の前途は政治的に解決せらるべきではなく、經濟的に解決せらるべきものだと思はるゝ。

要するに内鮮併合の眞意義に關する大いなる問題の上より見るも、又之を差當り朝鮮農業其他一般産業の開拓發展の上より觀るも、先づ資金關係に於て、内鮮共通なる金融市場の出現するに至らむことは、最も望ましきことで、又是非必要なこととせなければならぬ。

次に又資金の吸収といふ點のみでなく、その吸収されたる資金が如何なる方面に主として供給せられ、如何なる道筋に於てその需給が適合せられ、又如何なる事業の爲めに如何様に使用せらるゝかといふことは、半島の農業經濟發展の爲めには、頗る重要なことたらざるを得ない。此の意味に於ては、現在朝鮮に在つて農業資金授受の任に當りつゝある金融機關の組織、其の業務振、更には又各種金融機關相互の連絡關係等について、其の實狀を知ることが、資金の供給者に取つても、その需要者に取つても共に必要なことたらざるを得ぬ。又それは半島産業の開發とい

ふ公の立場から觀ても必要なことである。若し此點に關して機關の組織に大いなる缺典あり、又その業務振りに不都合の所あるに於ては、折角吸收されたる資金も、十分有效に其働を爲すを得ず、朝鮮農業の開拓發展の爲めにも、眞實によく貢獻し得ないこととなる。

何れにしても農業金融組織の問題は、朝鮮の農業と延いては又その他の産業一般の發展の爲めには、重大問題たらざるを得ない。以下私はその一般状態について解説と批判とを試みたいと思ふ。

## 二 朝鮮農業金融の系統的組織

朝鮮に於ける農業金融は民間金貸業者の之を行ふが如き非組織的な部分を除いて攻ふれば、銀行及組合等の手に依て行はるゝものは其の組織が頗る系統的に出來て居る。即ち其の機關としては、上に朝鮮殖産銀行及び東洋殖産會社あり、其等は各地方に多數の支店を有して全鮮に渡り業務を行つて居る。そして其下には又各地に多數の地方金融組合があつて、然かもそれは都會地組合と農村組合とに區別せられて各々適當に其の業務を行つて居る。そして又各地方金融組合を統合するものとしては各道に一個宛金融組合聯合會があつて、その所屬組合を統轄すると同時に他方朝鮮殖産銀行と直接の連絡を有し、之を親銀行として居る。從て金融組合聯合會は朝鮮殖産銀

行と各地方金融組合との中間に立つて之を結合する仲繼機關たる働を爲すのである。

されば朝鮮の農業金融機關は各地方金融組合が各々其道の金融組合聯合會に繋がり、各道の金融組合聯合會は朝鮮殖産銀行に繋がつて居るのであつて、上下相通じて一つの系統のものとして造られてある。そして又朝鮮殖産銀行は東洋拓殖會社の金融部と直接の連絡を取り、當初の計畫では後者が前者の親銀行として働くならば好からうとせられた次第で、是亦系統的連絡の下に置かれる考の下に計畫された。かるが故に朝鮮の農業金融機關は之を内地のそれに比較して更に一層系統的に出來て居るのである。即ち内地では上に日本勸業銀行があつて、其下に府縣の農工銀行が連絡を取つて兩者相聯らなつて居るけれど、今日では各府縣農工銀行中には既に日本勸業銀行に併合されて其の支店となつたものもあり、又在來のまゝ獨立に農工銀行として存續してたゞ業務上勸業銀と連絡を有するだけに止まつて居るものもある。其間既に多少統一的组织の紊れたる所がある。それに又内地に於ける各地の信用組合はその府縣の農工銀行と實際上連絡を取つて居るものもあるが、組織としては信用組合は各々獨立に業務を營むものであつて、農工銀行との法的連絡はない。又信用組合の聯合會とても、たゞ其の所轄信用組合の聯合會たるに止まり、農工銀行や日本勸業銀行と信用組合との中間機關たる譯ではない。内地と鮮地に於ける右の如き事情の相違は、金融組織として何れが優れるかといふ一段になれば研究問題たらざるを得ないが、

ともかく事實として斯く相違し、一方が系統的組織の下に在るに對して、他方がそれほど系統的になつて居らぬことは、注意さるべき事實たるを失はぬ。

然らば次に朝鮮に於ける農業信用の授受の行はるゝ場合に、其の信用の種類に依り、各機關の間に分掌があり、その點に於ても組織が整頓されて居るかといふに、此點に於ては實狀は各機關の相互の連絡ほど組織的になつて居らぬ。即ち不動産を擔保に取つてや、長期なる貸付を行ふ業務に就いて之を見るも、その所謂不動産抵當信用は之を東拓でも行つて居れば殖銀でも行つて居り、又地方金融組合でも行つて居るといふ風で、其間明瞭なる業務の分掌はない。例へばや、長期なる不動産擔保信用は殖銀及東拓に於て行ふ代り、短期なる經營信用は専ら之を金融組合に於て行ふといふやうな明瞭な業務の分掌はついて居らぬ。尙又之を大口貸付と小口貸付とについて見るも、殖銀及東拓は大口貸付を行ふことに傾いて居るは事實なれど、さればとて小口貸付を全然排斥して居るわけでもなく、其の意味に於ても明確なる業務分掌が出来ては居らぬ。

次に又注意すべきことは、朝鮮殖産銀行はたゞ單に農業上の金融機關たるばかりでなく、漁業・林業等は勿論のこと工業資金の授受を爲すをも業とする。尤も此の關係に於ては内地の日本勸業銀行の如きも同様だが、たゞ然し殖銀は此等の特殊金融に關する業務を行ふ以外に尙ほ普通銀行の業務を行ひ、更に貯蓄預金業務をも兼ね行ふは、最も注意すべき所たらざるを得ない。朝鮮に



於ける實狀は同行の業務をして斯くの如くならざるを得ざらしむるものではあらうが、隨分八百屋業である。それだけ特殊銀行としては純粹ならざる次第で、鮮地の經濟狀態に適應し未發達の狀態に在るものと謂はねばならぬ。従て普通銀行業務に關する限りに於ては殖銀は他の普通銀行と直接間接の關係を有する次第で、農業金融機關としての系統的組織は、それだけ複雑にせられ或意味に於ては雜駁にせられたるを否み難い。

次に今一つ朝鮮に於ける農業金融組織上注意すべきことは、總督府及各道廳と金融組合との關係であつて、之れ亦内地に於けるとや、趣を異にして居る。即ち總督府及各道廳は金融組合に對して管にその監督者たるを以て甘んぜないで、その業務の指導をも爲すことになつて居り、従て或程度までは金融組合の業務の内容に就いて發言權を有し、その業務は多少官廳の手心に依つて動かされざるを得ざることである。此事内地の大藏省や各府縣やが信用組合に對してはたゞその監督者たるに過ぎないので、よほど事情の相違を實際的に造り出すに足るものとせなければならぬ。そして之れと同一様の意味に於ては、總督府の殖産銀行に對する關係も監督以外業務の内容に觸るゝものとなつて居る次第で、従て殖銀の業務も亦官廳の意思に依て多少左右せられざるを得ざる實際狀態の下に置かれてある。

官廳と農業金融機關との此の密接な關係は、形の上に於ては尙ほ理事者の任免等の上にも表は

れ、殖銀の理事者の任免が總督の手中に置かれてあるは勿論のこと（此點は日本勸業銀行に於ても略ぼ同様である）金融組合聯合會の理事及び村落金融組合の理事はやはり總督の任免する所となつて居る。内地に於ける信用組合は任意的なる自治組合であるから、その理事者は固より組合員の選任に待つのだが、朝鮮の金融組合は指定的組合であつて、自治組合たる性質が十分に認められて居らぬから、理事者も斯く官選にせられてある。要するに朝鮮ではまだ多くのことが官の指導と管理の下に行はるゝ風あり、又その必要ある所から、農業金融の如きも亦その組織及業務について官の指導と管理とを缺ぎ能はざる現狀に在る。其邊から見ても事情はまだ未發達の狀態に在ることを窺ひ得られるのである。

### 三 朝鮮殖産銀行の組織と業務

朝鮮の農業金融組織の中に在つて、その最高の機關として、最も重要な働を爲しつゝあるものは、朝鮮殖産銀行である。茲に少しく同行に關する諸々の事情について觀察を試むる。

朝鮮殖産銀行は大正七年十月一日の創立にかゝり、在來諸地に存在したる農工銀行を併合し、之を基礎として造られたるものである。その農工銀行は舊韓國財政整理の時期に當り地方金融の梗塞を緩和し併せて殖産興業の目的を遂げしめん爲めに全鮮内樞要の地に設けられたるもので、

初め十一の本店と十五の支店とから成立つて居たが後本店を合併し之を六個とし必要の地點には支店を増設することゝせられて、その業務を行つたものである。然るにその公稱資本金は貳百六拾萬内拂込資本金は百四拾七萬圓に過ぎないで、之に政府の貸下金百四拾六萬圓を併せ、それを基本として業務を行ふ有様で、農工債券の如きもその發行高僅々參百萬圓に過ぎず總べて東拓の引受にかゝり、然かも内貳百萬圓は大藏省預金部より朝鮮の郵便貯金に屬するものを融通せしめたものである。預金とても大正六年七月末現在に於て九百八萬四千圓に過ぎないといふやうな哀れなものであつた。その貸出は同年同月末現在に總計千參百七拾萬圓ほどであつたが、固滞貸付參百五拾七萬圓に及び就中貳百參萬七千圓は缺損となるべき有様であつた。

そこで總督府は一面に於ては主として朝鮮の産業開發の爲めに又他面に於て農工銀行救濟の爲めに、之を合併統一して一大有力銀行を設立するの必要を感じ、終に其の計畫成りて出來上つたものが即ち朝鮮殖産銀行である。そしてその設立に就いては、從來の如く貧弱なる小銀行の分立するを非とし、之を統合集集中してその資力を大にすると共に適材をして之を管理せしむる方針を取り、同時に資本金を増加するの必要を見、先づ之を壹千萬圓と爲し、(後之を參千萬圓に増し現在の拂込資本額壹千五百萬圓である)又その業務を擴張することゝなした。<sup>1)</sup>

現在朝鮮殖産銀行の行つて居る業務は産業金融と公共金融と普通銀行業務と貯蓄預金業務との

1) 朝鮮殖産銀行設立理由書

四種である。就中産業金融は最も重要な業務たるを失はず、その業務範圍に屬する貸出は五十年以内の年賦償還、五年以内の定期償還、社債券の應募及引受等によるのであつて、前二者の貸付に對する擔保は不動産、不動産上の權利、財團若くは漁業權等とし、農業者又は工業者に對しては、十人以上連帶すれば無擔保貸付も行はるゝことになつて居る。昨年末に於ける産業貸付は合計六千七百餘萬圓に上ぼり、就中年賦貸付は四千五百萬圓定期貸付は貳千貳百六拾萬圓ばかりである。次に公共貸付は公共團體に對して五十年以内の年賦償還又は五年以内の定期償還の方法に依る貸付と、金融組合、漁業組合其他營利を目的とせざる産業に關する法人に對する右同様の二方法による貸付とを包含するのであつて、共に無擔保である。大正十二年末現在の公共貸付は合計五千貳百萬圓で、就中年賦償還によるもの貳千五百五拾萬圓、定期貸付貳千貳百參拾萬圓である。次に普通銀行業務と貯蓄預金業務とは朝鮮の事情の必要より行はるゝもので然かも前者は舊農工銀行時代よりの沿革に基くものとし、前者に在つては各種預金合計昨年末現在四千萬圓、各種貸出合計五千一百萬圓である。後者に在つては諸種預金合計約五百萬圓に過ぎぬ。

仍て公共及産業兩種金融につきその貸付を受けたる借主の種類を見るに、昨年末現在に於て(貸付總額約壹億壹千五百萬圓)農業者最も多く(其貸付金額四千八百八拾萬圓)次は公共團體(貳千七百八拾萬圓)次は組合(千八百四拾萬圓)次は商業者(千六百四拾萬圓)を主とし、工業者への貸

付は甚だ少く（參百七拾萬圓）漁業者最も少い（九拾萬圓）。そしてその資金の用途如何にと見れば、水利事業に對する貸付最も多く（貳千百五拾萬圓）農業之に次ぎ（千八百六拾萬圓）次は金融組合聯合會に對する貸付（千七百五拾萬圓）次は土地改良（千四百四拾萬圓）次は土地家屋（九百六拾五萬圓）といふ順序である。舊債整理の爲めの貸出も比較的多い（四百九拾五萬五千圓）。右等の外尙ほ行政、教化、衛生、交通運輸、林業、蠶業、工業、商業、畜産、水産、瓦斯及電氣、醸造、土木、旱害救濟等あり、その總口數二十餘に及びて居る。そしてその貸出口數は約二萬に垂んとし、一口の平均貸付額は六千餘圓である。

尙ほ貸付を其の用途により農工商資金に大別して各其の口數と金額とを擧ぐれば、本年八月末現在に於て農業資金口數一一、九〇二其の金額五千九百八拾貳萬圓、工業資金口數七一一其の金額四百七拾四萬圓、商業資金口數一九、五三七其の金額參千八百拾五萬圓、其他として括上せらるゝもの口數六、〇四八金額參千八百參拾五萬圓で、總計一億四千百萬圓である。尤も此の計算中からは銀行金融組合等の同業者に對する貸出は除かれてある。

此等の貸付に要する資金は、株金や預金や以外に於ては主として債券の發行に依つて之を吸収するものなること、不動産銀行の通則に漏れぬのである。殖銀の債券發行限度は拂込資本金の十五倍とし、然かも年賦及定期貸付金の總額並びに公共團體の債券、朝鮮に於て殖産事業を營むこ

を目的とする會社の社債券を應募又は引受けたる現在高を超過するを得ざるものとする。そして同行の發行せる債券金額は三十一回迄の合計壹億壹千參百六拾萬圓で、就中貳千萬圓は大藏省預金部の引受にかゝり、九千參百六拾餘萬圓は公募及銀行其他の引受である。<sup>2)</sup>

#### 四 殖銀業務批判

總べて右示すが如くにして殖産銀行の業務は行はるゝのであるが、今少しく批判的に其の組織及業務について攷ふるに、先づ其の組織が中央集權的になつて居り、従來諸地に在つた農工銀行が併合統一せられたことに就いて其の是非を見なければならぬ。私は元來の主張からいへば農業金融機關は地方分權的なるを可とする者であつて、各地にその地方々々の金融機關の存するがよ、之を全國的に集中して一大中央銀行が之を統一する組織は、その貸出がとかく大口のものに偏し易く、又貸付は中央附近又は中央よりの交通の便なる地方に偏し易く、とかく小口の地方的需要が無視せらるゝ嫌ある所から、餘りよい制度ではないと思つて居る。その意味に於て内地の府縣農工銀行を日本勸業銀行に併合統一せんとする企のあつた際にも、制度上の主義としては不賛成を表はした一人である。然し今朝鮮について見れば、その事情が著しく内地と異り、地方の經濟實力が弱く、従て地方に分立する農工銀行の如きは、その資本も小額たらざるを得ないし、

2) 朝鮮殖産銀行と朝鮮の産業七——二二頁。

その發行する債券の如きはとても十分に賣れる見込なく、それが内地で賣れないばかりでなく、僻内地方に於ても賣れる額は頗る僅少なるべきを疑ひ難い所から、それ等の農工銀行が併合されて一大中央銀行とせられたのは、寔に已むを得なかつたものだと思ふ。そしてそれが中央の大銀行となつた爲めに兎も角も今日之を見る如き業務上の成績は擧げられた次第で、中央集權といへば語弊があるが、朝鮮經濟界の爲めには、農工銀行の代りに殖銀の出來たことは、甚だ喜ぶべき所とせなければならぬ。

然かも殖銀は全鮮内に五十七の支店を有し、それ等がその地方々々の事情に應じて地方銀行としての働を爲しつゝある次第だから、此等の支店の業務に重きを置かるゝ限り、組織に大いなる欠典ありとはいへぬ。

たゞ然し乍ら其の業務の實際に對しては、現在でも、殖銀が多少ともに公共貸付を過重し個人農業者に對する貸付が事情の之を要求するほど十分に行渡り兼ねるといふ考を持てる人もあるやうだから、其邊については理事者に於て今後は一層の注意を要すること、思はるゝ。尤も朝鮮の農業の現狀はまだ開拓時代で、開墾干拓や土地改良やの如き事業が公共的事业として着々實行されねばならぬ時代だから、その方面に對する貸出の自然多くなるのは恕すべき所ありとせねばならぬ。又地方公共團體の如きも資金を必要とする所多く、その方面に對する貸出の多きも止むを

得ぬ所であらう。又更には殖銀と總督府との關係から之を見ても、後者の意思が前者の業務に對してや、強き勢力を及ぼすことあるべきをも思はなくはならぬ。けれども此上の希望としては、貸付があまり大口なる資本主義的事業に偏せないやうに、中小農家の需要する資金の供給も潤澤に行はるゝやうに、注意さるゝあらむことは、甚だ好ましき所といふ外はない。そしてその中小農民に對する資金供給の爲めには、金融組合との關係が重要問題とならざるを得ない次第で、之に就いては後に又述ぶる所があるであらう。

次に致へらるゝ所の問題は、殖産銀行は、その本來の使命を果さむ爲めには、公共團體及び一般農業者に對して、出來得る限り低利の資金を貸付けて、朝鮮の産業發達に資せなければならぬ。従て其の貸付資金を吸収するに當つては、十分低利なる資金を求めて、然かも潤澤に之を吸収するを要し、その資金吸収が都合よく行はるゝと否とは、實に同行業務成績の擧ると否との岐るゝ所たらざるを得ない。然るにこの低利なる資金の吸収といふ事業は中々容易なことではなく、内地に於ける農業貸付資金に於ても已にさうであるが、朝鮮に於ける貸付の爲めに吸収する資金に就いては更に困難ならざるを得ない。

試に發行さるゝ債券の利率を見るに、近時一般的に金利高き爲め内地に在つても日本勸業銀行の割増金を附せざる債券(所謂大券)でも大抵七分利であり、農工銀行債券は通常八分である。従



て朝鮮殖産銀の債券は公募は八分といふを例とし七分五厘で公募されたのは近頃は第二十二回と第二十五回とだけである。たゞ大藏省預金部の引受にかゝる分だけが五分五厘であつて、之は所謂政府の低利資金に屬し固より例外たるに過ぎぬ。甚しきに至つては日本勸業銀行の引受にかゝるものは八分一厘(第二十三回)及八分三厘(第二十六回)であつて、公募よりも却つて利子歩合が高い。尤も之は公募のものに比し長期なるが故に高歩なるは當然かも知れぬが、兎に角高い金を借り入るゝものと謂はねばならぬ。

然かも斯かる高き利子歩合を以てしても其の債券募集は十分潤澤には行はれ難く、今日迄の所創立以來總計一億數千萬圓を出でざる有様である。就中公募されたるものは壹億圓ばかりに過ぎぬ。

そして吸收さるゝ資金が高利なれば貸付も從て又高利ならざるを得ざるは當然で、之を昨年十二月中の金利狀況に就いて見るに、殖銀の民間貸付利子は低きも三錢二厘高きは三錢六厘普通三錢五厘といふ見當である。三錢五厘といへば年利歩合にすれば一割二分七厘五毛に當る。尤も斯かる高き利子歩合は之を朝鮮銀行の貸付日歩に比すればやゝ高いけれど(鮮銀は二三厘方安い)普通銀行に比すれば低いのである。(普通銀行は高きは四錢普通三錢七八厘である)まして之を普通民間個人相互の貸借に比較すれば頗る低利なるを失はず、個人貸借の金利は月二分乃至三分位が

3) 『朝鮮殖産銀行と朝鮮の産業』二一頁  
4) 『朝鮮總督府金融機關概況』各種銀行民間貸出金利表

普通だといはるゝから年にすれば二割四分乃至三割六分に及ぶのである。高きは月四分位のもあるさうだから年五割に近い利子が通常の現象として存在して居る次第である。とにかく殖銀の貸付利子歩合は之を民間普通の金利に比較すれば著しく低利だけれど、一般的觀察に於ては決して農業の爲めに低利の資金を融通することに於て遺憾なきを得て居るとはいへぬ。尤も内地でも勸銀や農工の貸付がやはり比較的高歩で、之を殖銀のそれに比し一分か二分か位しか安くはない現状だから、殖銀ばかりに就いて彼此いふことは出来ない次第で、議論は從て内地たると半島たるとを問はず我國一般に就いての議論とならざるを得ないが、要するに業務利益の薄き農業に於て、斯かる高き利子を拂つて資金を用ゐねばならぬ我國の現状は、洵に困つたものといふ外はない。特に朝鮮の農業は將來大いに發達する餘地はあるにしても、現在各農家の經濟は中々樂くない段ではないのだから、一般的に金利の今少しく低下せむことは、是非必要のこと、せなければならぬ。若し殖銀と金融組合と相待つて、農業資金を今少しく低利に調達融通するを得るにも至らば、朝鮮の農業と農家とは、どれほどか助かることであらう。

それと同時に農業資金が朝鮮に對して今少し潤澤に供給せらるゝに至らんことは、目下の急務といふの外なく、其爲めには前にも之を述べたやうに、内地に於て朝鮮の經濟其他一般事情に對する理解が十分に行はれて、其の眞狀を知り、彼地に對する投資の安全にして有望なることの解

得ざるゝに至らむことを必要とする。尙又殖銀の發行する債券の如きにしても、勸業債券や農工債券の如きと同一様に待遇され、その擔保力も十分にせらるゝに於ては、内地市場に漸次歡迎さるゝに至るべきは明かだから、其等のことに關しても、種々の注意の行はるゝを必要とするであらう。従來は日本銀行に於て之を見返擔保に用ゐるを肯せなかつたやうだが、そんな事では殖銀の必要とする資金吸収に大いなる不便あるべきは論を俟たぬ。聞けば最近に至つて、見返品中に加へらるゝことゝなつたとか將にならんとして居るとかいふ話だから、その問題は片づく筈だが、其他の事柄に關しても、殖銀債券の内地に知れ渡り行渡り、一般の人々が之を愛好するに至らんことを祈らざるを得ざる次第である。従來その發行の爲めに専ら努力せられたる内地の藤本ビルブローカー銀行や山一合資會社の如き、大いに其勞を多とせなければならぬ。今後も更に一層の努力を望むと同時に其他の銀行等に於ても朝鮮の經濟的開發の爲めに同情を傾け盡力さるゝあるに至らむことは、獨り朝鮮經濟の爲めのみならず、廣く我が國民經濟の爲めに、最も望ましき所とせなければならぬ。

次に問題となることは、農業金融は農業本來の性質上長期貸付を必要とするものであるのに、殖銀が其の貸付資源として債券を發行せる其の債券は大抵短期なものゝ多いことである。即ち之を従來の實狀に就いて見るに、公募のものは短きは一年半長きも五年間位に隨時償還する條件

になつて居る。たゞ大藏省預金部の引受にかゝるものと、日本勸業銀行の引受けたものが、或は十五年間とか十八年間とかいふやうに稍々長期のものとなつて居るに過ぎぬ。然るに此等の資金を以て貸出を爲す方面は、法規では五十年迄は年賦償還期間を定むるを得ることゝなつて居り、實際そんな長いのは無いにしても水利組合其他に對する貸付は相當長期の年賦償還貸付になつて居る。期くては殖銀としては短期の資金を吸収して長期の貸付に應ずるといふ業務上の困難と手數とを省めねばならず、殆んど定期預金を吸収して長期の年賦貸付を行ふのと多く選ばないやうな事になつてしまふ。

吸收資金と貸付との間に斯かる期間の喰違ひあるからには、殖銀としては常に債券の募集にばかり忙殺されて、しかもその募集し得たる資金は之を以て新規の貸付を爲すことは出来ないで、償還期の到來せるものゝ借替の爲めに之を用ゐなければならぬ場合が多く、其間手數と費用との少からざるものがある。そして債券の募集總計額の多い割合には貸付は行はれ得ないで、貸付業務の成績は十分に舉がり難く、理事者は這間の遺繰の爲めに大いなる精力と時間とを費さざるを得ざることゝなる。一體抵當銀行たる働を爲すものが、一年半とか二三年とかいふやうな短期債券を發行するといふのは、不思議な位おかしなことゝ謂はねばならぬ。

然しそれも實際の事情からいへば、一面には我國に於ける金利が近時一般に高くて、然かも經

5) 『朝鮮殖産銀行と朝鮮の産業』二一頁。

濟界の變動定まり無く、殆んど前途に對する見込の立ち難い事情ある爲めに、下手に長期の資金を吸収して高歩の金を背負ひ込み、後日金利の下落せる際に困難せなければならぬといふ恐あるが爲めに、先づ安全第一で短い資金を吸収して置くを便利とする點もあらう。又一面には殖銀債券に對する世間の信用まだ十分ならざる爲めに、そして朝鮮の事情に對する一般の信念薄くその投資を危ぶむ風ある爲めに、長期債券と爲しては賣行き難い事情あつて、已むを得ず之を短期のものど爲す點もあるであらう。恰も遺縁に急がしい商業銀行が、定期的な資金を獲る道少き爲めに、コールを漁つて兎も角も其日々々の急場を凌いで行くやうに、同じ債券ながら長期の債券では賣行き覺束き爲めに努めて之を短期にして兎も角も當座の間に合はせ、然かも先に募集したものが短期なる結果其後又矢繼早に度々短期のものを發行して借替々々やつて行かねばならぬ事情の存する次第でもあらう。若し此の兩面の事情の實際に存するならば、今日の場合短期債券の發行さるゝは無理からぬ所といふの外なく、特に後者の事情の存するあるに於ては、殖銀としては洵に遣りにくい苦しい立場にあるものと謂はねばならぬ。比較的幼稚なる朝鮮經濟界の現状と、之に對する内地人の理解及び感情とを以てすれば、其間に處して資金調達の任に當る殖銀の仕事の遣りにくい點は、十分同情に値する。

然し何時までも斯くてあるべきではないから、今後一方には朝鮮に於ける經濟一般特に農業經

濟狀態の發達するあり、他方には又内地人の之に對する理解と同情との増すに連れて、債券の如きも、今少し長期なるものを今少し低利に又今少し潤澤に資金の吸收を爲し得べきやうに發行することの出来るに至らむことを期せねばならぬ。其點については當局各方面の一層の注意と努力を望む次第である。勿論その努力は努力ばかりで効果を擧げ得べきものではなく、我が經濟界一般の狀態の立直され健實味を加へ落付きを得ること、相待たなければならぬが、希望としては斯くあらんことを呉々も希望する次第である。

以上私は朝鮮殖産銀行のことに就いて論じたが、今朝鮮の農業金融について筆を執りつゝある者としては、之れと共にどうしても東洋拓殖會社のことに論及せなければならぬ。人も知る如く東拓は朝鮮及外國に於ける拓殖資金の供給其他拓殖事業の經營を目的として設けられたるもので、明治四十一年八月法律第六十三號に據て設立せられ、爾來朝鮮を本舞臺として、土地の開拓、移民の扶植、拓殖資金の供給等に盡力し、相當の成績を擧げ得たるものである。その貸出は最近の計算に於て四千百萬圓に上はり、主として土地改良、水利事業、營農及移住民、公共團體等に對する資金である。

そして東拓は朝鮮に於ける資金供給の關係だけからいへば、殖銀創立の際にも、東拓は滿蒙其

他に對して業務を發展することに力を注ぐべきものとし、朝鮮に在つてはその金融部は主として水利組合その他各種の事業會社等に對して大産業資金の供給を爲すことゝすべきものとせられ、之に對して殖産銀行は主として中流以下の産業者に對して資金供給の任に當るを可とするものとせられた。即ち斯くて兩社はその活動の範圍を異にし從て互に業務上の衝突を避け得るものと考へられ、尙又東拓に於て外國市場より低利の資金を吸収するを得ば、同社は殖産銀行の親銀行として其の債券を引受け以て殖銀に於ける長期貸付資金の充實を圖らしむることゝし、兩社相提携して朝鮮開發に貢獻せしめんと企てられたのである。然るに悲哉其後東拓はその業務成績とかく期待に沿ひ難く、所謂滿蒙經營といふ大政策は朝鮮銀行をして一敗地に塗れしめたと共に、東拓も亦十分にはその羽翼を伸べ得ないで、鳳志徒らに時運の非なるを歎き暫く大翼を垂れて南風競はざるを悲む外なきことゝなつた。そんな事で東拓は殖銀に對しても豊富に資金の融通を爲し以てその長期貸付資源を充實せしむるを得ないで、たゞ農工銀行時代に明治四十四年と大正六年とに壹百萬圓と貳百萬圓とその債券引受を爲したるに止まり、殖銀時代となつてからは債券引受を爲す段ではなく、却つて出来ることならあべこべに援助して貰ひたいやうな氣にもなつただらうと思はれるやうな有様である。從て其の貸出も四千萬圓餘りに過ぎざる次第である。併し朝鮮内に於ける東拓の事業は安全に行はれつゝあり、決して全然失敗と見る能はざるばかりでなく、

或程度の積極的な成績を擧げ得たるは裏書して間違ない所である。今後大いに陣容を立直して目醒しき活動の行はれむことを、吾れ人ともに刮目して待つ次第である。

## 五 地方金融組合及聯合會

朝鮮の農業金融機關として、殖銀及東拓と相並むで重要な働を爲しつゝあるは、前に之を明かにしたやうに地方金融組合及其の聯合會である。之は或意味に於ては殖銀などに對しその下級機關として働くべき任務を帯びたものであるが、又或意味に於ては獨立して民間金融の業に當り、一種信用組合に似たるものとして、或程度の自主的存在を有するものである。

金融組合は明治四十年に制定されたる地方金融組合規則に據つて造らるゝものであつて、範を獨乙の村落銀行に採り又朝鮮在來の「契」の制度にして資金の融通利殖を主としや、信用組合に似たるものを參酌して考案されたものだと言はれて居る。そして金融組合は各府郡内に一定區域を定め其の區域内に在りて之に加入する者を組合員として組織さるゝのである。然かもその組合員は成るべく中流以下の階級に屬する人々の中より之を選び、その任務は組合員の金融を緩和し其の經濟の發達を企圖するに存する。

金融組合の設立に對しては政府より特に業務資金を下附してその獎勵を行つたのである。従て



今や各地に普及し、大正十三年三月末現在に於ては、業務を開始せる組合數四百七十五、組合員數三十三萬六千餘人、出資拂込濟金額四百八拾餘萬圓、政府下附金參百貳拾餘萬圓、積立金參百貳拾餘萬圓、預り金參千六拾餘萬圓、借入金貳千九百四拾餘萬圓に上ぼり、貸付金額五千參百拾餘萬圓、所有物貳百參拾餘萬圓、預け金及現金千八百貳拾餘萬圓に達した。

尤も金融組合規則は大正三年に一度根本的改正を經、大正七年には又大改正を加へられ、特に後の大改正に於ては、從來設立されたる農村金融組合の外に新に市街地に於て主として小商工業者を以て組合員とする都市組合を設立するを認められ、同時に又金融組合の聯合會を設立することとし、各道に一個づゝ之を造るものとした。大正十三年三月末現在村落組合四百十九、都市組合五十六であつて、聯合會は固より十三である。<sup>8)</sup>

金融組合の業務は、農村組合たると都市組合たるとにより多少の相違があるが、大體に於ては(一)組合員に對しその經濟の發達に必要な資金を貸付すること(都市組合の場合には手形割引を爲すことを得)(二)組合員の爲めに預り金を爲すこと(三)組合員の爲めに産業上必要なる材料の貸付若くは共同購入を爲し又は組合員の委託に依り其の生産物を販賣すること(四)組合員の爲めに其の生産物を倉庫に保管し又は之に對して倉庫證券を發行すること(五)朝鮮總督の認可を受け組合員にあらざる者の預り金を爲すこと(六)朝鮮總督の認可を受け銀行の業務を代理し又は之が媒介を爲す

8) 以上『朝鮮金融機關概要』に依る。

(七) 朝鮮總督の命令ありたるときは地方金融の調節に關する業務を營むこと之である。

されば金融組合の業務はたゞ單に預金及貸付に關する金融事項のみに限らないで、謂はゞ内地に於ける信用組合の業務以外尙ほ購買組合の業務に屬する産業材料の共同購入、又販賣組合の業務に屬する組合員の生産物の販賣、更には利用組合の業務に屬する産業必要材料の貸付をも行ひ、尙又組合員の爲めに其の生産物を倉庫に保管し之に對して倉庫證券を發行する點に於ては、農業倉庫の業務に似たるものをも營む次第である。其の業務の範圍頗る廣汎で、從て其の組合としての性能も甚だ複雑なものたるを知ることが出来る。そして斯くの如く業務範圍廣きことは、幼稚なる朝鮮特にその農村に於ける經濟狀態の現狀に於ては、洵に必要で止むを得ざる所たり、斯くあるに依て甫めて農家は大きいなる利便を得、又比較的短年月の間に比較的著大なる發達をも遂げ得たものと謂はねばならぬ。然し將來經濟界の狀況の發達するに連れて、組合も亦分化し、信用、購買、販賣、利用といふ風に各種分別の組合と爲り來るべきは明かな所である。

そして又金融組合は今日迄の所ではその設立や所轄區域の如きも總督府の指定に依り又既述の如く村落組合では理事者も官選せられるといふ風で、組合員の自發的計畫に依て成立つものではなく、從て又自治的にして民主々義的組織を有する歐米や我が内地の産業組合とは、其點に於て性質を異にして居る。併し之れ亦從來朝鮮の民度を以てしては斯くの如くなるを得ざる事情あり、

斯くの如くならざれば能く發生し發育するを得なかつたのであるが、將來はやはり任意的自治組織たるべくその發達を遂げねばならぬ。尤もその時期が何時到來すべきかは中々見込が立ち難く、恐らく近き將來にそこまで進み行き得べしとは思はれぬが、理想の其所に在らざるべからざるは言を俟たぬ。

次に組合設立に際し行はる、政府下附金は村落組合のみに對し下附せらるゝものであつて、一組合六千圓乃至壹萬圓である。之れ村落組合に在つては農家經濟の一般的に甚だ貧弱なる爲め、組合員の出資金及諸預り金のみを以てしては、到底その業務行はれ難いからである。加之設立當初二三年間は此の下附金以外に組合經費の一部分をも補助する有様である。そして大正七年以後に設立されたる都市組合に對しては、政府はその設立を援助する爲め、聯合會より一組合につき參萬圓乃至五萬圓の低利資金を貸付せしむることになつて居るが、國庫より下附金を行ふことはない。たゞ政府は各聯合會に對して業務資金として貳拾萬圓宛を無利子にて貸付くるのである。<sup>9)</sup>

次に金融組合に於ける預り金は、都市組合に在つては預金總額の三割強は組合員の預金であるけれど、村落組合に在つては農民一般に預金の習慣少く又實際その餘裕を有せざる結果、組合員の預金は僅かに總預金額の一割九分強に當るに過ぎぬ。都市組合及村落組合を通じて見たる組合員の預金は二割二分に當り、四割強は公共團體及法人の預金で残り三割強は一般公衆預金である。

そして借入金は都市組合が殖産銀行より得たる手形再割引金拾壹萬餘圓以外は、總べて金融組合聯合會より融通されて居る。聯合會に對する殖産銀行の貸付は既に述べた所に照し見れば明かなる如く、昨年末現在に於て千七百五拾萬九千圓を計上して居る。<sup>10)</sup>

次に組合の貸出について見るに、村落組合に在つては、組合員に對する貸付四千貳百五拾萬圓に上ぼり、その組合員の大部分は中小農民であつて、その貸付金は農業資金として用ゐられて居る。その金額が貸付金總計に對する割合は正に七割五分に當つて居るのである。舊債償還の爲めに行はるゝ貸付は一割二分に當るのである。都市組合に在つては商工業資金貸付が總貸付の七割五分を占めて居る。尙又村落組合の貸付中自作土地の購入、土地開墾其他土地改良等の資金と都市組合に於ける店舗工場設備等の資金融通は、その資源を長期借入金に求め、その貸付額千八百五拾餘萬圓に上ぼつて居る。最後に金融組合が殖産銀行の貸出の媒介を爲せるもの本年八月末日現在に於て九百七拾餘萬圓である。<sup>11)</sup>

斯くの如くにして金融組合はその有する資金に比すれば遙かに大なる貸出業務を行つて居るのであつて、内地の信用組合の如きは多くはその有する預金其他の資金を以て其の範圍内に於て貸付を行ひ、他より借入金を爲して貸付を行ふもの少く、從て一組合平均貸付は其の預り金の範圍内に在ると少からず面目を異にして居る。即ち金融組合の一組合平均貸出は其の預金の二倍弱に

10) 同上 一〇頁  
11) 同上 一一頁

達して居る。そして金融組合一組合の取扱高は拾壹萬壹千八百圓に上はり、内地信用組合一組合當り壹萬七千圓なるに比し、著しく著大なる取扱を爲して居る。<sup>12)</sup>之れ金融組合が内地に於ける各種産業組合を併せたるが如き性質のものたり、又朝鮮には内地の如く普通銀行の田舎に普及して居らぬため其の爲す所をも總べて取賄ふ事情ある所からも出て來るのであるが、兎に角彼地經濟界に於て金融組合の爲す働は多大なるものとせなければならぬ。特にそが下層金融機關として庶民銀行たる任務を行ひつゝある點より之を見て、其働の社會的效果は多大なりとせなければならぬ。

そこで尙は最少し詳しく金融組合各個についてその借入金と貸付とに就いて見るに、金融組合各個の資金借入限度は長期五萬圓、短期貳萬圓であつて、其の限度内は道應に於て之を査定認可し、その以上の要求は總督府に於て査定認可する。然し此額は拂込濟出資金と積立金とが多ければ擴張せられるのである。そして此の以外に前述の如く都市組合には特別低利資金といふがあつて、府の所在地組合は五萬圓、他の都市組合は參萬圓を借入れることが出来る。利率は六分二厘である。村落組合に在つては前述の無利子なる政府支出金ある外に、無利子で四千圓を、六分利を以て參千圓を限度として政府より借入るゝを得る。すべて此等の限度内に於て組合所要の金額は半期毎の計算を基礎として各組合の借入所要額を聯合會に於て取纏め、その各聯合會よりの申

12) 同上—四頁

出を總督府に於て取纏め多少の取捨選擇を行ひ、殖銀に廻付すべきものは廻付して其の貸出を行はしむるのである。

次に金融組合より組合員に對して行ふ貸付は、其の限度一組合につき村落組合では貳百圓都市組合では壹千圓とし、擔保の有無を問はない。尤も村落組合に在つても、資金の用途により、自作用土地購入、土地改良、農用建物の新改築、土地を擔保とせる舊債償還等に對しては五百圓迄とする。都市組合に在つては店舗の設備、店舗の新改築、工業用建物の新改築に對しては參千圓迄とする。右例外は何れも不動産擔保貸付に限るものとし、十五年以内の年賦償還又は五年以内の定期償還法による。そして現狀に於ては擔保貸付と無擔保貸付とは大抵半分々位の割合になつて居る。

組合の組合員に對する貸付利子及期限は、大體村落組合に在つては短期日歩四錢五厘、期限一ヶ年以内となつて居る。長期は年一割五分である。都市組合に在つても短期は大體四錢五厘、長期も一割五分位だが擔保附手形ならば日歩四錢のもある。そして貸付が無擔保で行はれる場合には連帶保證人二人を要することになつて居る。この貸付金利の高いことは現に多少問題となつて居るやうであるが、鮮銀殖銀等の貸出しですら前述の如く高きは參錢四厘とか參錢六厘とかいふ風であり、普通銀行は高きは四錢にも及ぶ様だから、獨り金融組合のみが之をあまり安くする

わけにも行きかねるやうである。特に民間の個人貸借が年五割又は其以上にも及ぶ高利のものがあつたやうな風では、一般的に今少しく資金豊富となり、信用進みて金利の低下を見ざる限り、金融組合のみ獨り之を行へば、却つて組合員は組合より借入れたる所を他人に又貸し以て其間の利鞘を取らんとする者をも生ずるに至る恐あり、事情甚だ困難なりとせらるゝ。

然し之を一般的にいへば、そんな高い金を用ゐねばならぬ朝鮮の農家は實に氣の毒なものといはねばならぬ。日歩四錢五厘といへば、實に年利率一割六分五厘に當るのである。それをすら非常に低利なものとして喜び借りつゝある農民の實狀は氣の毒といふも中々おろかである。

## 六 金融組合中央會設立の必要

朝鮮の地方金融組合及び其の聯合會は、今日の所まだ其の規模は小さいが、然し其の創設以來に於ける發達の著しきと、其の業務振りの健實さは、洵に賞讃に値するものがある。其間總督府及各道の當局者の盡力と組合理事者の骨折りととは容易ならざることであつたらうと思はるゝ。今日では其の規模は尙ほ小なりと雖も、然かも其の朝鮮金融界に於ける地位はかなり重要なものたるを失はない。即ち組合の數は鮮地内各銀行及び東洋拓殖會社の本支店數百六十六に對して約其の三倍に當り、組合員數は内鮮人總戸數三百三十萬八千餘戸に對し百戸毎に組合員十人強と

いふ割合になつて居る。之を内地に在つて信用組合(信用兼營組合を含む)の組合員數の總戸數に對する割合百戸毎に十八人強(大正九年末)なるに比すればまだ及ばざること遠いが、朝鮮に於ける現狀としてはかなり普及したものと見て差支なく、尙ほ今後も組合と組合員數とは大いに増加する見込である。そして組合の預り金は普通銀行の預り金七千六百七十餘萬圓に對し四割弱に當り、郵便貯金(振替貯金を含まず)貳千九百萬圓に對して十五割強に當つて居る。内地の信用組合の預り金貳億貳千四百餘萬圓を同時期の郵貯八億六千六百餘萬圓に對比すれば二割六分に當るに過ぎぬ。次に貸出は殖産銀行及東洋拓殖會社の民間貸出金壹億四千餘萬圓に對し其の四割弱に當り、之を内地に於て信用組合の貸出金壹億八千九百餘萬圓が同時期の日本勸業銀行及府縣農工銀行の貸出金五億五千八百餘萬圓に對し三割強にしか及ばぬに比し、其の歩合大である。<sup>13)</sup>

狀況斯くの如くなるに加へて、金融組合は鮮人の間に大いなる信任を得て鮮人の之に對する感情の甚だ良好なるは、最も喜ぶべきこととせなければならぬ。大正八年の萬歲騒の際に當つても、金融組合や殖産銀行の支店やに危害を加へられたるものゝなかつたことに依ても、這間の事情は推察さるゝ。

されば金融組合の事業は先づ大成功といふて不可なく、朝鮮に於けるあらゆる新たなる施設の中最も成功したるものゝ一に數ふるも敢て不可なき所であらう。之が爲めに都市特に農村に於け



る中産階級以下の者の利便を得たる所は實に些少ならず、所謂下層金融機關としての其の貢献は實に著大なりと謂ふべきである。

所が茲に一つ今後に對する希望として、金融組合の現状を更に大いに補充し、其の完全なる系統的組織と其の益々有效なる働とを得せしむる道の考へらるゝものがある。それは全鮮金融組合の中央會の組成といふことである。之に關する希望は今や金融組合及其の聯合會の理事者之間には熱心に懷かれて居る所であつて、總督府當局に於ても問題は攷究中なりと聞く。

前に説明したやうに、現状に在つては地方金融組合の指導と監督とは兩者之を併せて總督府及道廳に於て之を行つて居るのである。然し元來官廳は、金融組合の如きものに對しては、其の監督の任に當るは當然だけれど、其の事務の指導を爲し業務の内容に觸れて多少どもに之を動かすに足るほどの權能を有するものとせらるゝは、あまり妥當の制度とはいふことが出來ぬ。出來ることならば、監督者たる者と指導者たる者とは別々のものと爲すが適當であつて、斯くてこそ甫めて監督の實も舉がり、又業務の實際經營と其の指導とも、官廳の意思を離れて自由に行はるゝを得る。されば今金融組合の中央會が組成されて業務に關する指導上の任務と中央機關としての經營上の任務とを荷ひ、組合に對する監督は總督府と道廳とに於て専ら之を行ふことゝ爲すに於ては、兩任務間に明瞭なる區別が出來、各適當なるものをして適當のことを行はしむることゝな

つて、組織も茲に完備し、組合業務の成績も亦更に大いに擧がり得る道筋のつく次第とせなければならぬ。

次に又朝鮮の地方金融組合は、聯合會に依て先づ統轄せられ、その各道聯合會が業務上朝鮮殖産銀行と直接の連絡を取つて居て、其の關係からいへば殖産銀行は各聯合會の親銀行たる働を爲し、金融組合に對して一種の中央機關たる地位を占めて居る。けれども銀行と組合とは元來その組織を異にせるばかりでなく、その據て立つ根本原理を異にして居る。組合はたとへ其の業務上に於てこそ殖銀と直接の連絡を有すれ、それが爲めに殖銀が金融組合の純然たる中央機關たるを得べきものではない。殖銀は殖銀として獨立の存在と自由の意思とを有するが如く、金融組合は又その獨立にして自由なる存在と意思とを有する。されば今金融組合が自己の固有なる中央機關を欲しいと思ふは、殖銀との業務上の連絡の存在とは別問題としても成立し得る希望である。蓋し中央機關の必要はたゞに業務上の實際的利便といふ點ばかりから出て來るものでないからである。その以外金融組合中央會は、金融組合思想の普及宣傳の爲めにも働かねばならぬ。又新組合の組織の爲めにも働かねばならぬ。既存組合の指導者たる任務にも當らねばならぬ。中央會としては實に諸多の方面に重き任務を負はねばならぬのであつて、それ等の任務は固より殖産銀行に之を望むことの出來る性質のものでなく、中央會なるものゝ出來上つてこそ甫めて其等の任務は

行はれ得るものとする。

それに又之を單に業務の上のみから見ても、現今殖銀は金融組合聯合會に對して資金貸出の業務を行つて居り、その總額は前にも之を示したやうに昨年未現存に於て壹千七百五拾萬圓に達して居るとはいへ、其額は之を金融組合側の希望からいへば、まだ決して十分で有り餘るほどだとは申されない。金融組合としては更に多くの資金を要する次第だが、殖銀としては言はゞそれで手一杯で、さうく巨額の貸出を金融組合にのみ對して行ひ得る手の内ではない。そして内地では勸業銀行より農銀をして所謂代理貸付なるものを行はしめて居るが、殖銀が金融組合に對して之を爲さしむる所のもは所謂媒介貸付であつて、之に似てや、非なるものである。その金額は本年八月未現在に於て總計八百九拾六萬餘圓に上つて居て、組合はその手数料として利息の百分の十五を得、借主に對しては貸付利子に一分を附加することになつて居るのだが、此の方法では借主に取つては利息の高きものとなる所あるに加へて、殖銀としては餘り之を好まぬ風なきにもあらず、組合側が之を希望するほど常に潤澤にその融通が行はれることは出來難い。要するに組合側をして之をいはしむれば、殖銀の現状では公共貸付に多額の資金を要するものだから、一般的に個人貸付に十分手の届き兼ねる嫌がある。そして殖銀は設立當時は金融組合を以て自己の手足たるべきもの、如く考へもし考へさしもしたのだが、其後一方には資金の吸收難もあり、又

一方には自己自身の手足が支店の増設に依つて整つて来たものだから、今や多く金融組合の手を藉る必要を感じざるに至り、従て自然媒介貸付の如きもあまり之を好まず、貸出を行ふならば自らの手に依て之を行はんとする風も、段々著明なるに至りつゝ、ありと考へらるゝ。

ともかくそんな關係から、殖銀と金融組合とは業務上頗る密接な關係を有し、互に相倚り相扶くる親族關係であり乍ら、其間何となく水臭きもの、無きにしもあらず、一つには益々多額の資金を必要とする實際上の事情と、一つには元來異種屬のものが親族關係にある所から生ずる不便とからして、金融組合としては別にどうしても自分達の固有な中央機關を設立したいと熱心希望するに至つた次第である。

從てその希望せらるゝ所の金融組合中央會は、内地の産業組合中央會のやうに、たゞ宣傳と組織の斡旋と一般的なる組合方略の攷究樹立と一般に涉る産業組合運動の指導といふが如き方面の事を爲すに止まるものでなく、更に産業組合中央金庫の如き現實なる資金授受の業務をも行ふものとして、兩者の任務を一身に兼ね備へたるものたらしめんとせられるのである。内地と朝鮮とは又自ら大分事情も相違して居るのだから、内地では中央會なるものと中央金庫なるものが別個のものとして存在し各々その任務を行ふことが必要で又便利であるか知れぬけれど、朝鮮の事情としては寧ろ兩者を打て一丸となせる組織のものとして中央金融組合を造らんとせらるゝ、次

第である。後日或は兩任務は自らに分離して機關としても別個のものに分離することあるかも知れぬけれど、それは又後日のこととして、兎も角も今日の必要と實情とから之をいへば、兩務兼行の一中央機關を造らんと希望せらるゝものとす。

然るにたゞ一つ茲に問題となることは、金融組合の中央會が設立されて、其の任務とする所は中央金庫的な現實の業務にも及び、金融組合間に於ける資金の融通を圖るべきものだとするに於ては、その中央會は組合に對する貸出を行ふに必要な資金を何れの邊より吸収するを得べきか、その吸収し得べき金額は、組合の之を要求する程度に潤澤で、之を以て豊富なる貸出供給を行ひ得る見込ありやといふこと之である。此點については内地の産業組合中央會に關しても同様の問題が致へられる次第で、とかく其の資金の吸収難に苦まざるを得ないであらうと思はるゝことは、彼我殆んど異なる所なく、金融組合中央會はその地盤が朝鮮たる爲めに、更に一層の困難あるべきかとも思はれる。

此點に關しては、現今熱心に中央會の設立を希望しつゝある人々の間には、保險會社や普通銀行から借入れても相當な額は得られると信じて居るやうであつて、朝鮮で集めた資金を内地へ送ることに對しては輿論がやかましいから、此等のものも或程度までは資金供給に應じて呉れる筈だと思つて居るやうである。そして現今普通銀行の定期預金協定利率は一流銀行で七分、二流銀

行で七分五厘だから、九分か九分五厘なら、相當な額の貸出をして呉れるであらうなど、考へられて居る。

それに又公益團體の預金も吸収し得られる筈だし、郵便貯金の如きも參千萬圓近くあるのだから、その幾部分かは又必ずや中流以下の人々の爲めに行はるゝ貸出を任とする金融組合に融通されて然るべきものだと思はれて居るやうである。

何れにしても朝鮮では農村預金を此上吸収する餘地は乏しく、精々三百萬が五百萬位しか吸収し得られぬだらうから、公益團體の預金や郵便貯金の振替やを得るを以て預金の方面では主眼と爲す外はなく、其の以上の必要は借入で之を賄つて行く外はないとせられるのである。

そして中央金融組合が債券を發行して資金を吸収する道はといふに、現今殖銀の債券でも十分思ふだけの額は發行出來兼ねるやうな有様だから、今金融組合債券として賣出して見た所で、とても十分なる成績を挙げ得べしと思はれぬ。結局は郵便貯金を見返るとか何とかして大藏省預金部でも之を引受けるか、殖銀が引受けるかになつてしまふであらう。

惟ふに金融組合中央會の設立されたる曉に於て、其の業務上最も困難とせらるゝ所は、どうしても此の資金の吸収といふ點でなくてはならぬ。そして此の資金吸収難といふ事實は、獨逸の普露西産業組合中央金庫でも之を経験した所である。其の結果は結局中央金庫の必要とするだけの

資金は吸収し得られないで、總かに低利なる國庫金の貸下を得て其の業務を行ふ外なきこと、なつた。我が内地に於ける産業組合中央金庫の如きも、やはり此の資金吸収には相當困難せざるを得なからうと思はるゝ有様だから、朝鮮金融組合中央會も此點については、豫め十分なる考慮をめぐらした上でなくては、其の設立されたる曉に於ける業務の成績については、豫想のつき兼ねることであらう。

尙ほ之れに關聯して攷へらるゝことは、從來に於ける金融組合の業務の實狀に照して之を觀れば、貸出はとかく不動産を擔保とするものに固定し易い傾向を持つて居るやうだから、その吸収する資金も短期のものでは不便で、出來得る限り長期の資金を吸収するを必要とする。然るに殖産銀行すら已に長期資金の吸収に困難を感じて居る位だから、金融組合として、各個組合に於ても將又中央金融組合に於ても、長期資金を潤澤に吸収することは、中々困難のこと、謂はねばならぬ。そして此の意味から推して攷ふれば、從來の金融組合は借主團體たる性質のものであつたが、今後は貸付を希望するよりも寧ろ預金を爲さんとする者、然かも中流階級以上の者を、成るべく多く組合員として加入せしむることに努力する必要があるやうに思はるゝ。

すべて此等のことに就いては、總督府や道廳や長年實地の組合の業務を預つて居る理事者達やの間に、纏つた考もあることであらうが、兎に角現在までの成功に甘んぜないで、今後更に大い

なる發展と活動とを期せんとするに於ては、或は中央會の設立なり、其他各組合又は聯合會の業務方針なりに就いて色々計劃すべきものや、改良すべきものやの存すること、思はるゝ。そして一方には殖銀あり他方には金融組合があつて、或は前者は公共團體や事業團體等に對する大口貸付を主とし、後者は個人に對する小口貸付を主として行ふといふやうなことになるか、それともやはり前者も大口小口共に貸付を行ひ、つまり殖銀と金融組合と二系統のものが併立し乍ら然かも相扶けて、農業金融の圓滑なる進行と發展との爲めに努力することゝならば、農業金融全體として、彌々大いなる發達を遂げ得ることになるであらう。それに就けても、將來金融組合を純粹なる産業組合的のものとし、自主的にして自治的なるものたらしむるか、それとも現狀をそのままに推進めて行くか、その何れを可とするかに就いては、問題として攷究すべきもの多々あるべしと思はれる。同時に又金融組合を飽迄ライフアイゼン式のものたらしむるか、それともシユルツエー式のものたらしめ庶民銀行として發育せしむるか、その何れを可とするかについても、攷究すべき餘地はかなり有るものと思はれる。然し實際的には茲暫くは、やゝ官臭を帯びた現狀を基礎として進み行く外はなく、又現狀の如くやゝ庶民銀行的のものとして進み行く外はないことであらう。



以上私は朝鮮の農業金融組織に就いて、その大體の説明と要點々々に關する批判的論議を試みて、一通り其係を傳ふることが出來たと思ふ。要之その組織と活動振とに於ては、殖銀と金融組合との連絡關係に於ても、又その各々の爲す所に於ても、多く誤れる所なく又非難すべきものもない。そして又之を不動産信用について見るも、經營信用について見るも、一通り資金上の需要は充されて居る。たゞ此上の希望は、益々其の組織を整へて、銀行系統と組合系統との各々の發達と兩者の聯結とを完全のものゝ爲すと同時に、貸出に要する資金の吸收を十分にして、潤澤なる資金供給の行はれ得る力を造り上げると共に、貸出に於ては大事業に對する大口なる貸付と、個人々々に對する小口なる貸付とが、都合よき振合を以て、資金が一方に偏することなきやう心掛くること、此等何れの貸出に於ても、一般的に今少しく金利の低下するを得るやう大いなる努力が行はれて、せめて朝鮮の農業金融をして内地に於けるものと金利狀況に於ても甚しき差異なからしむやう、その状態の速かに造り出さるゝに盡さるゝ所あらんことが、切に希望せらるゝ次第である。然しすべて此等のことの爲めには、結局は潤澤なる資金供給が行はるゝことを以て最大必要と爲す次第なれば、一方には内地より資金を招致しそが流動してやがて内鮮平均の状態の造り出さるゝまでに至らんことに盡力さるゝと同時に、他方には又朝鮮内特に農民の間に勤勉と貯蓄との氣風を大いに涵養して、朝鮮の地そのものから段々に資本の造り出さるゝに至るべきやう、層二層の努力の行はれむことを希望せざるを得ざる所である。